

取組のポイント

- ①畑総事業の実施にあたり、農地中間管理機構を活用して、本法人に農地を集積。
- ②本事業による畑かん用水の導入により野菜栽培を実現。さらに、天候に左右されない栽培出荷体系を確立。
- ③かんしょの出荷先を開拓し、令和2年度から大手食品メーカーと取引を開始。焼き芋、なすの漬物を道の駅等で販売。



法人の経営概要

代表取締役：鈴木秀行
設立年：平成28年
社員：57人
販売額：830百万円
経営面積：233.5ha
主要作物：主食用米109ha
WCS10ha, 麦70ha, そば68ha,
かんしょ11ha, ねぎ 1ha,
にんじん 2ha

取組概要

①農地を集積

本法人の設立当初は、水稻、麦、そばの作業受託を主に行っていたが、高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加等に対応するため農地の賃借にも取り組む。

畑総事業の実施にあたり、農地中間管理機構を活用して、本法人に地区の約55%にあたる18haの農地を集積。

②新規作物導入、栽培技術の確立

事業実施前は、自給的農家がほとんどで、陸稲やたばこを栽培。事業を契機に、本法人に集積された農地で畑かん用水を活用して、ねぎ、なす、にんじん等の高収益作物を新規導入。区画整理された農地に大型機械を導入するなど、天候に左右されない計画的で安定した栽培出荷体系を確立。

常陸大宮市の「有機農業推進計画」策定を契機に、1haで野菜の無化学肥料、無農薬にも取り組み、外部講師を招く等、オーガニック農業技術の習得と普及に取り組む。市と連携し学校給食に出荷予定。



畑かん展示ほ場

③市場の開拓

かんしょの出荷先を開拓し、令和2年度から「(株)ポテトかいつか(Calbeeグループ)」と取引を開始(出荷量は当初の1.6倍)。また、焼き芋、なすの漬物を道の駅等で販売する等、6次産業化に取り組む。



技術研修会



事業概要

地区名：三美地区
事業種：県営畑地帯総合整備事業
(担い手育成型)
関係市町：茨城県常陸大宮市
受益面積：31.9ha
工期：平成20年度～令和2年度
事業目的：区画整理、用水改良
主要工事：区画整理 31.9ha,
用水路 L= 6.7km



三美地区